令和６年度岐阜県青少年美術展青年部の選定評

絵　画	昨年より５０点近く多い出品数となり、高校生の制作意欲の高まりを感じた。好きなものをそのまま描いた作品は少なくなり、作者の意図やテーマが感じられる作品が増えた。高い技術力で制作された作品が多くみられた。安易な表現を求めるのではなく、満足できるまで描き込むことで表現を追求し、自己の表現を模索しつつ制作を楽しんでもらいたい。
デザイン	表彰作品などは、緻密な画面構成と熱量ある表現が感じられ、圧巻であった。何より伝達する方法が工夫され、見る者も試されているような面白さと緊張感を味わうことができた。デザイン部門の定義から見直す時代であるからこそ、デジタル表現やキャラを中心に据えるのではなく、強い他者へのメッセージ性のある作品づくりに期待したい。
立体造形	立体造形部門は、昨年度より応募作品数が増加し、どの作品も時間をかけて作品に向き合い、丁寧に制作された作品が多い印象であった。動物や人間など、高校生の視点から身近なものを題材として表現しており、造形表現や着色方法についても、それぞれの工夫が見られ、完成度の高い作品が多いと感じられた。
書　道	応募作品が増えたことは嬉しい限りである。漢字の書が大半を占め、多字数の作品に秀作が目立った。仮名の書は、例年よりも大字仮名の力作が多く出された。篆刻作品も応募されたことはよかった。漢字仮名交じり書の作品では、事前に著作権への配慮ができるようにしてほしい。
写　真	写真は絵画から生まれたといわれ、リアルに写ってしまうところが絵画との大きな違いであるが、今回、出品された作品には、時間をかけ、仲間と協力し、創意工夫したものや、高校生特有の心が生み出した意欲ある秀作が多く、表現に大切な要素である被写体、光、情報の３つが融合し、作品として昇華していた。